けせん医報

目次

●巻頭言　「県立大船渡病院の現在地」
　気仙医師会　副会長
　　岩手県立大船渡病院　院長　中　野　達　也… 2
●令和６年度定時総会…… 3
●理事会報告
　■令和６年度第１回理事会報告…… 7
　■令和６年度第２回理事会報告…… 8
●随　想
　「ランニングはほどほどに」　医療法人勝久会
　　地ノ森クリニック　院長　神　澤　太　一……11
　「学会に参加して考えたこと」
　　岩手県立大船渡病院内科
　　総合診療科長　岡　野　継　彦……12
●研修医日記
　岩手県立大船渡病院　二年次研修医　大　野　妃　香…13
●会員の異動のお知らせ……14
●訃報……15
●事務局日記……16
●編集後記……18
●表紙のことば……18

KESEN-ISIKAI

第１６７号

2024. 8. 25

気　仙　医　師　会

岩手県大船渡市盛町字内ノ目６－１

TEL：0192-27-7727　FAX：0192-26-2429

http://kesen-med.or.jp/

気仙医師会広報部　発行　令和６年８月25日　製作：村田プリントサービス

巻頭言

「県立大船渡病院の現在地」

気仙医師会　副会長
岩手県立大船渡病院　院長
中　野　達　也

岩手県立大船渡病院院長となって２年目になります。今年は久しぶりに病院の同門会が開催予定になっています。大船渡病院は昭和９年に有限責任購買組合気仙病院として開設されてから今年10月で創立90周年になります。当初17床の病床で発足してから、多くの方々の努力でここまで発展してきたものと思うとともに、歴史の重さを感じます。

最近の病院を取り巻く環境はより厳しくなってきています。コロナは昨年５類感染症に移行しましたが、入院患者数はコロナ以前には戻らず、年々収益が減少しています。さらに診療報酬改定では加算の条件が厳しくなり、より減収になることが見込まれます。患者数の減少は少子高齢化による地域の人口減によるところが大きいと思われ、病院の努力では限界があります。少子高齢化、人口減は気仙地域に限ったことではなく、大都市圏以外の全国で進んでいることであり、全国の公立病院の病床利用率は平成30年の75％から令和４年には約67％に低下しているとのこと。また、人口減の影響で医療人材不足も深刻で、岩手県立病院の今年度の職員採用募集では、助産師、薬剤師、検査技師等コメディカルの受験倍率がいずれも0.5倍以下となっています。医師に関しては奨学金養成医師の沿岸地域等での勤務の必須化もあって、病院全体の医師数は減っていないものの、常勤医が不在の診療科の存在、指導医となる中堅以上の医師の不足といった課題は依然として残っています。一方、費用の面ではエネルギー価格・食材料費・医療材料費等の物価高騰が続いていることも経営上のマイナス要因となっています

このように病院にとっては逆風だらけの状況ですが、病院を持続するためにこれに立ち向っていかなければならず、現在一部病棟の休止を含めた経営の効率化を検討中です。そのため、これまで以上に近隣の医療機関との機能分担と連携体制の強化が必要で、連携を密にして地域の医療体制を維持していきたいと考えております。

報道等でご存知のように、この４月からドクターカーの運用を開始しています。これは当院救急科の医師が２名体制となって実現したことですが、これによって地域の救急医療体制はより充実したものとなりました。また、市民に向けての公開講座やオープンホスピタルの開催も予定しています。縮小だけではなく、できることをやりながら地域と協力して気仙地域の医療を守っていくことが当院の役割と考えており、引き続きこれを実践してまいります。

随　想

「ランニングはほどほどに」

医療法人勝久会 地ノ森クリニック
院長　神　澤 太　一

大船渡で働きはじめて２回目の夏が来ました。年々暑さが増していますが、木陰の風が涼しく感じます。山があり海があり、鳥の囀りが聞こえ、鹿の親子がすぐそばを通っていきます。自然を身近に感じることができます。自宅のある埼玉県と大船渡の行き来をしていますが、気温の差が大きく、緯度の違いを感じます。桜は２度楽しめますし、夏は避暑にもなります（冬は寒いですが）。

趣味の話になりますが、昨年の冬からランニングを始めました。早朝に走っています。ランニングを始めた理由は健康維持、体質改善、アンチエイジングが目的です。大船渡にいる間はそれほど歩いていないことが判明し、また加齢による代謝の低下もあり、体重が増加しつつありました。診療中は、患者さんに「運動しましょう」と偉そうに指導している割には自分で行うことは億劫になっておりました。

まずは思い切ってハーフマラソンの大会に先にエントリーし、それから練習を開始しました。これまでに４回参加しましたが、これが不思議なもので、初回の記録が一番よかったのです。なぜか回数重ねるごとに記録は遅くなりました。序盤は体が軽いので調子に乗って飛ばしてしまい、後半バテる、歩くこともありますが、なんとか完走という感じです。

体のコンディションも変わりますし、気温や天気も変わります。大会ごとにコースも異なりますので、記録がどうかよりも、とりあえず完走を目標、記録はその次、レース中は自分と自問自答をしています。中盤から後半にキツくなってくると、なぜ走っているのだろうか？これは果たして楽しいのか？と考えるようになります。楽しまないと勿体無いと思いますし、キツい思いをするために走っているわけではありません（健康維持が目的です）。周りの景色、沿道で声をかけてくださる方々、給水所のスタッフには励まされ、助けられます。ランナー同士で声をかけて励まし合うこともあります。知らない人同士でも、同じレースに参加することで、声を掛け励まし合いゴールに向かうというのはとても新鮮な気持ちになります。

キツくなったらスピードを落とします。すると少し体が楽になります。思考回路にも余裕が生まれ、後半に頑張れます。これは仕事でも同様で、自分のペースを考えること、キツくなったら調節することが大事だと思います。

さて、走り始めて体は変わったのでしょうか。変わったことは、食事量が増えたことでしょうか。ランニングを始める前よりもお腹が空き、多く食べられるようになりました。食べる割には腹囲や体重は少し減少し、健康診断でもデータは改善しておりました。運動して消費することが大事なのだと感じます。これを続けるのはさらに大変かもしれませんが、なんとか楽しく続けたいと思います。秋には東京レガシーハーフマラソンに出場する予定です。無事に完走できたらいいなと思います。

「学会に参加して考えたこと」

岩手県立大船渡病院内科
総合診療科長　岡　野　継　彦

４月に内科学会総会があり参加しました。地方会には参加したことがありましたが総会は初めてでした。場所は東京国際フォーラムでした。事前にプログラムを見ましたが関心のあるセッションはなく現在診療している疾患に関係する一般演題を聴くことにしました。そのセッションは演題数が少なく予定時間より相当早く終わりそうでした。

会場に着くとブースは広くなく用意されていた椅子は少なく、座長、演者、会場スタッフ以外の一般聴講者は10人程度でした。全国学会に参加してこの人数でしたので最初は会場に入ることをためらいましたが他に聴きたいところもないため入ることにしました。一題目が終わり質疑応答に入りました。意外に質問が多くあり演者は丁寧に答えていました。二題目以降も同様に質問が多く時間がかかりました。私は質問はしませんでしたが周りの先生方の話を聞いて多少なりとも勉強になりました。

終了してから今回のような質問が多く時間を要する一般演題は聴いたことが余りなかったため自分なりに少し考えました。まず参加者は直接診療に関わっている内容であったため関心があったものと思いました。次に人数が少なく質問をしやすかったのではないかと考えました。また、演者と聴講者は近すぎず遠くもないような距離であったことも質問をしやすくしたのかもしれません。更に最初から時間に余裕があったことでした。質問する側も受ける側もある程度の時間にゆとりがなければ相手に話を伝えたり相手の話を理解することが難しくなるのではないかと考えました。

この学会で偶然にこのような形式の発表を聴く機会がありよい経験になりました。今後はこのような学会に参加するときには事前にプログラムをよく読んで少しでも役に立つように努めたいです。

研修医日記

岩手県立大船渡病院　二年次研修医

大　野　妃　香

大船渡病院での２年間の研修医生活が始まった。

実は幼いころ、定期的に大船渡市を訪れていた時期がある。小学校低学年のころ、父の転勤先がここ大船渡市だった。当時母は自分で車を運転する習慣がなかったので、月に１度、盛岡駅のマリオス前から出発する岩手県交通バスに乗って片道３時間の道程をゆく。スイミングスクールの帰り、濡れた髪をタオルキャップに包んだくらいにして、当時出来たばかりのアイーナで暇潰しの本を借り、バスに揺られる。サンリア前で降車すると父が待っている。父の車に乗り換えて、古めかしくちょっと怖い公舎につくと疲労感でいっぱいで湯船のなかで舟を漕ぎながら床につく。あっという間に朝になり、また盛岡に帰る。それが私の幼少期であり、大船渡の、しいては父との記憶である。

2023年春、病院に続く長い坂道を自家用車で登りながら、目に映る風景はどこか懐かしい。公舎裏のよく遊んだブランコも、はるか昔に年越した和室の畳も月日を感じさせずそこにある。兎にも角にもまずは２年間、ここで頑張ろうと決意を固めた春だった。そこからの１年間は怒涛の毎日で瞬く間に過ぎていった。この１年間、心が折れることなく毎日を積み重ねることができたのは、２年次研修医の先生方と優しく親身にご指導いただいた上級医の先生方の存在が大きい。細やかに声をかけていただき、研修医室はもちろん、院内においても孤独感を感じたことはない。顔を突き合わせれば自分が経験した症例の画像の読み合わせや判断に迷った症例の治療方針について議論を交わし、誰も余りをつくらない和気藹々とした２年次研修医の先生方の雰囲気はとても心地よく、私の目指すところでもある。私がこの１年でいただいたものを後輩の先生に渡すことは絶対として、臨床推論の積み上げ方と手技を磨くこと、本格的に志望科の勉強を始めること、今年もやりたいことばかりが積み重なっていく。

診療においては良いことばかりではなく、自分の力不足で心が沈んだ日も、患者さんの心ない言葉に傷ついた日もある。それでも、我が子を抱いてほっとしたようなお母さんの姿や若輩の私に頭を下げて感謝の言葉を授けてくれるご年配の患者さんの姿に重石のような心が救われることがある。知識も技術も足りない未熟者の私の一番の先生は目前の患者さんであることを忘れず、患者さんへの感謝の気持ちをもって精進したいと思うばかりだ。

健康診断の結果を見ようと自分のカルテを開いた時のことである。私の名前のカルテが２つ。入職前後で重複したのかなと思い、開いた片方には父親の名前でカロナールが処方されていた。思いがけずほっこりした出来事である。

編 集 後 記

立秋を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。今号では中野先生からの大船渡病院の現状についてのご報告、神澤先生の自然豊かな大船渡でのランニングの話、岡野先生の内科学会総会での学び、そして大野研修医の懐かしい記憶と研修生活のエピソードをお届けしました。地域の医療を守るための努力と、個々の医師の成長が感じられる内容です。

また、今年の秋にはアメリカで大統領選挙が行われます。トランプ前大統領とカマラ・ハリス副大統領の激しい争いが予想されています。この選挙は日本にも大きな影響を与える可能性があります。医療政策や経済政策がどのように変わるのか、注視する必要があります。特に医療分野では、薬価や医療技術に関する政策がどのように変わるかが注目されます。新しいアメリカのリーダーシップが日本の医療に与える影響についても、今後の展開を見守りたいと思います。

季節の変わり目、どうぞご自愛ください。次号もまた皆様に有益な情報をお届けできるよう努めてまいります。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

（ｅｍｕ）

表紙のことば

大船渡市の鎌田水産（株）所有の大型サンマ漁船の出港式の模様です。
今年は出漁解禁が例年より早まったため、例年より１０日程早いこの日に出港となりました。

ここ数年、サンマの不漁が続いておりますが、６隻のサンマ船は威勢良く出港しました。今年こそは豊漁を願うばかりです。

（写真提供：村田プリントサービス）